

研究所を支える縁の下の力持ち

—植物標本ボランティアの活動紹介—

植物標本庫 NACって?

植物標本庫は、1996年度の研究所発足と同時に設立、2001年に国際登録されました。収蔵標本は、植物の分類や、希少種保全のための研究などに活用されています。寄贈された植物標本は、種の同定、データベース登録、マウント(台紙貼り付け)後、殺虫処理を経て、収蔵庫へ収められます(図1)。ボランティアさんには、主に標本のマウント作業をお願いし、植物に詳しい方には植物の同定作業にもご協力いただいています。

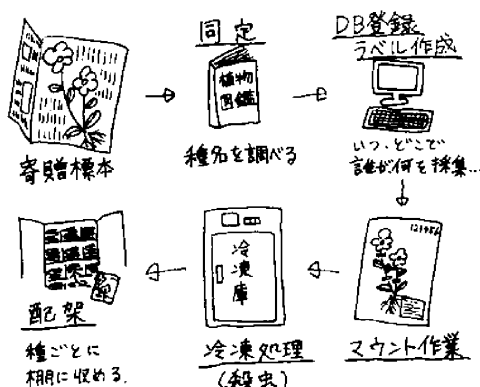


図1. 標本が配架されるまで

興味はいろいろ、楽しい仲間

標本ボランティアには、色々な方々が来て下さっています。植物の興味についても、科学的な側面に興味を持っていたり、文学のなかに登場する植物に興味を持っていたりします。じっくり植物が観られる、植物の勉強ができる、いろいろな話が聞けて刺激があるなどそれぞれ感じている魅力も様々です。「この前〇〇山に行ったら△△の花が咲いていて綺麗だった」と植物の情報交換をしたり、「これ何だと思う?」と標本が差し出されれば「クリだ! クヌギだ! アベマキだ!」と見分け方を勉強したりしています。しかし、ボランティアさん達の興味はそんな所ではとどまりません。

「たまずさって何だ?」

そんなある日、ボランティアさんがカラスウリの標本を持って来て下さいました。「カラスウリは、玉

梓(タマズサ)の別名があるがその理由とは何なのか、知っているか?」という問いかけに、「昔は手紙を枝の先にくくって運んだとか、それを玉梓と言って



図2. カラスウリの種子

いた。種に帯の様な突起がある...(図2)。種に帯状の突起があって結んだ文みたいだ!」

では、終わらないのが面白いところです。

「じゃあ、なんで梓なんだ?」と誰かが言えば、「梓の木は梓弓に使われる神聖な木だったそうだ」と誰かが返す。

「そもそも梓はなんの木だ...」と疑問は尽きません。

他にも、童謡唱歌の歌詞の意味や、その中に出てくる植物のことについてや、七曲がり(長野市街地-飯綱高原間にある坂道)の曲がり角の数はいくつか? 七つで無くとも七曲がりなのはなぜか? などについて話したり...

はっきりとした答えが見つかるとは限らないからこそ面白いのかも知れません。毎週、いろいろな考えを巡らせながら楽しく作業しています。

標本庫の運営にはボランティアさんのご協力が不可欠です。新しい仲間も大歓迎ですのでご興味のある方は、研究所までご連絡下さい。(石田祐子)



図3. 標本庫を支えて下さるボランティアさん達(筆者は左端)